



KIRIN

よろこびがつなぐ世界へ
Joy brings us together

キリンググループ 2024年度12月期 第1四半期決算

2024年5月9日

2024年度 1Q実績サマリー

各事業でブランド投資や研究開発投資を行うも、事業利益は前年並みで推移

(億円)	24年1Q実績	23年1Q実績	増減	%
売上収益	5,018	4,503	514	11.4%
事業利益 *	331	336	-5	-1.5%
税引前四半期利益	442	201	241	120.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	259	56	203	363.3%

定量実績	24年1Q実績	23年1Q実績	増減	%
平準化EPS **	32	32	—	—

- 第一四半期の連結売上収益・事業利益はともに計画を上回って推移
- 税引前四半期利益と親会社所有者四半期利益は、2023年の一時コスト***の反動により、増益
- 平準化EPSは前年並みとなった

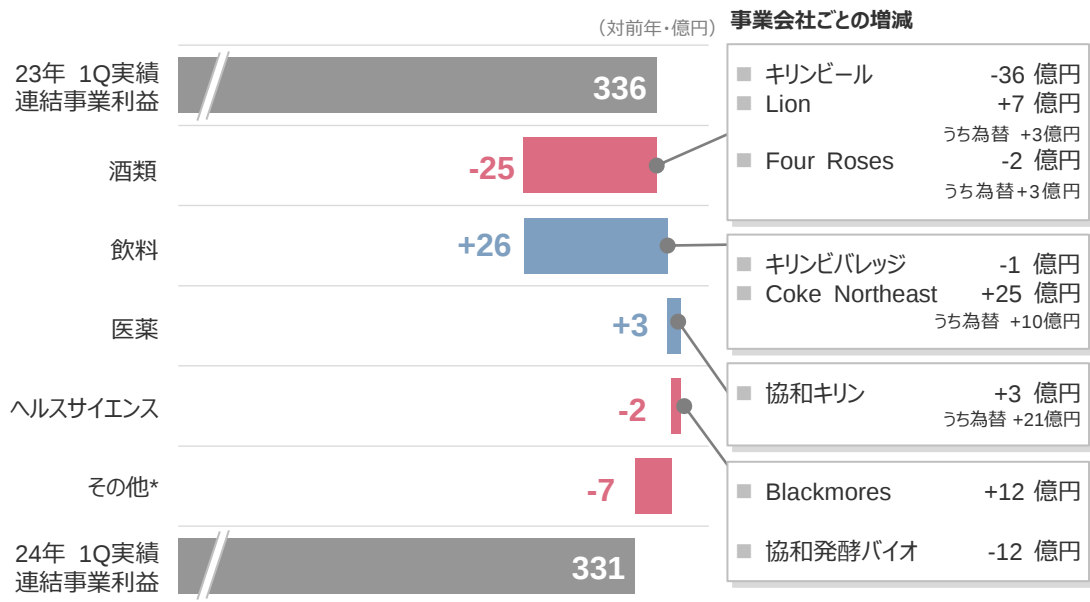
* 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出

** 明細はp.11参照

*** ミヤンマー事業の連結除外に伴う為替換算調整勘定（約190億円）の実現

2024年度 1Q実績：連結事業利益 セグメント別損益増減

キリンビールのブランド投資による費用増加を、Coke Northeastの増益でカバー



全体

各社原材料等の高騰影響を、価格改定やコストコントロールによって相殺。ブランド投資や研究開発投資は計画通り行うも、事業ポートフォリオで補完することで前年並みとなった

酒類事業

キリンビールやLionでは、主力ブランドへの投資を実施し、市場をアウトパフォームしているが、キリンビールにおける新ブランド「晴れ風」の発売等に伴うブランド投資増により減益

飲料事業

Coke Northeastは、価格改定による単価改善や為替により大きく増益。キリンビレレッジは前年並み

医薬事業

次世代パイプラインのための研究開発費増もグローバル品を中心とした売上収益の増加や為替により増益

ヘルスサイエンス事業

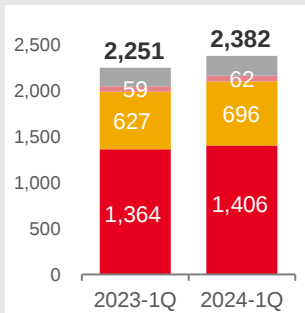
Blackmoresの連結化に伴う収益貢献があるも、協和発酵バイオの氨基酸事業の収益性悪化等により、前年並みとなった

その他

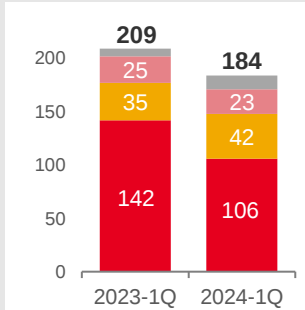
全社費用・セグメント間取引消去は増加

* 「その他」は、「その他」と「全社費用/セグメント間取引消去」との合算値

売上収益 (億円)



事業利益 (億円)



■ キリンビール ■ Four Roses
■ Lion ■ その他

・キリンビールの実績は酒税込売上収益を記載
© Kirin Holdings Company, Limited

2024年 1Q実績

キリンビール

- ▶ 主力ブランドでマーケティング投資の効果が発現
一番搾りブランド / 本麒麟 / 氷結ブランド で市場を上回る成長



- ▶ 狭義ビール新ブランド『晴れ風』が初回出荷計画を大幅超過



4月販売動向

1. 4月は販売計画を大幅に超過
2. 一番搾りファンとは異なる層のトライアル獲得実現により、カニバリが最小限に

- ▶ ジャパニーズウィスキーの富士ブランドは欧州や国内を中心に売上高が約3倍*と好調に推移し、計画を超過



* 対前年増減比率

** 発泡酒・新ジャンル（発泡酒②）合算のエコノミーカテゴリ前年比を記載

Lion

豪州

売上収益 Hahn +18%*
Stone & Wood +16%*

- ▶ 集中投資とマーケティングを推進した成長ブランド（Hahn、Stone & Woodなど）が販売を牽引

- ▶ 氷結ブランドは、複数フレーバー展開もあり販売は好調に推移



- ▶ 構造改革による組織のスリム化は計画どおりに進捗

北米

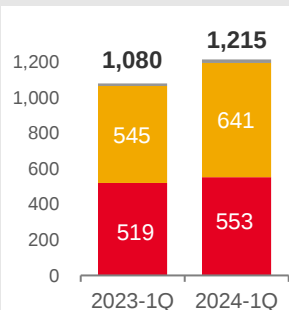
売上収益 米国クラフト市場 ▲1 ~ +1%*
Lion(北米クラフト) +18%*

- ▶ 販売体制強化及びVoodoo Rangerブランドの伸張により市場を上回る成長を継続

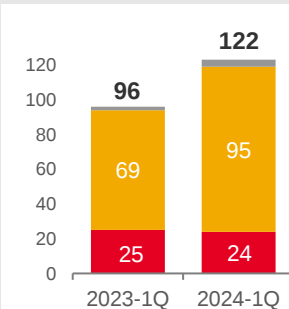
- ▶ 成長するRTD市場でVoodoo Hard Charged Teaの全国販売を開始し、順調に推移



売上収益 (億円)



事業利益 (億円)



■ キリンバレッジ ■ その他
■ Coke Northeast

2024年 1Q実績

キリンバレッジ

- ▶ 主力ブランドの午後の紅茶と生茶はレギュラー商品を中心に伸長し、**売上収益の増加を実現**
- ▶ ヘルスサイエンス飲料は既存商品の好調に加え、「おいしい免疫ケア」シリーズやファンケルとのコラボ等の昨年の新商品が寄与

午後の紅茶・生茶



売上収益

+6%*

ヘルスサイエンス飲料



売上収益

+32%*

うち、
プラズマ乳酸菌入り飲料
+39%*

Coke Northeast

- ▶ 1月に価格改定を実施し、**販売単価の上昇と収益性を向上**
- ▶ 価格改定後も炭酸飲料の伸長によって、**全体の販売数量は維持**



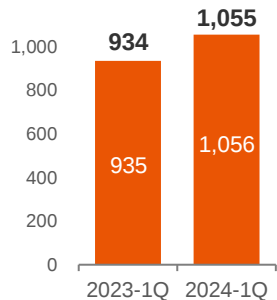
販売単価

**価格改定により
一桁台増**

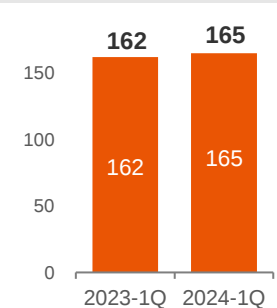
販売数量

前年並み

売上収益 (億円)



事業利益 (億円)



■ 協和キリン

2024年 1Q実績

協和キリン

- ▶ グローバル戦略品の成長
(対前年 日本 + 海外売上成長率・円ベース)



+28%



+38%

- ▶ Orchard社の株式取得完了



- OTL-200 (Lenmeldy™*) が
米国FDAの承認を取得
- 両社の強みを融合した付加価値創出に向けてPMIを実施中

PMI最優先課題

1. R&Dにおける付加価値
2. 顧客対応における付加価値

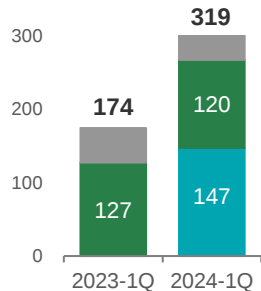
Orchard社説明会(4/8実施)

- Orchard社の株式取得の背景
- Orchard社と造血幹細胞遺伝子治療について
- 造血幹細胞遺伝子治療に関する今後の計画

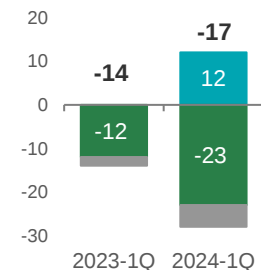


詳細はこちら

売上収益 (億円)



事業利益 (億円)



■ Blackmores ■ 協和発酵バイオ ■ その他

2024年 1Q実績

Blackmores

- 全体で着実にトップラインの増加を実現
売上収益(参考) **+5%***
- 主なトピック
 - 豪州・NZ：BioCeuticalsの力強い成長により、売上収益は+5%*の成長
 - SEAK**：ベトナムにおける粉ミルク事業での製造委託先切替等による売上減少があったものの、それ以外の国では増収を実現
 - 中国：価格改定や広告販促の投下により、ブランド認知度向上と売上収益の+21%*を実現

BLACKMORES
| GROUP



プラズマ乳酸菌

注) プラズマ乳酸菌入り飲料は「ヘルスサイエンス」セグメントに含まれないが、以下はプラズマ事業全体を示している

- 継続して規模拡大を実現
売上収益 **+33%***



- 内閣府所管の国立研究開発法人における SCARDA***事業に採択

国立感染症研究所との共同研究でプラズマ乳酸菌を医療用に活用し、COVID-19やインフルエンザ等の呼吸器ウイルス感染症に対して、感染防御効果を有するワクチンとしての可能性を探索

素材としてのプラズマ乳酸菌（乳酸菌L、ラクティスプラズマ）に関する情報を記載しています。プラズマ乳酸菌を含む製品の効果・効能を示すものではありません。



詳細はこちら

* 対前年増減比率

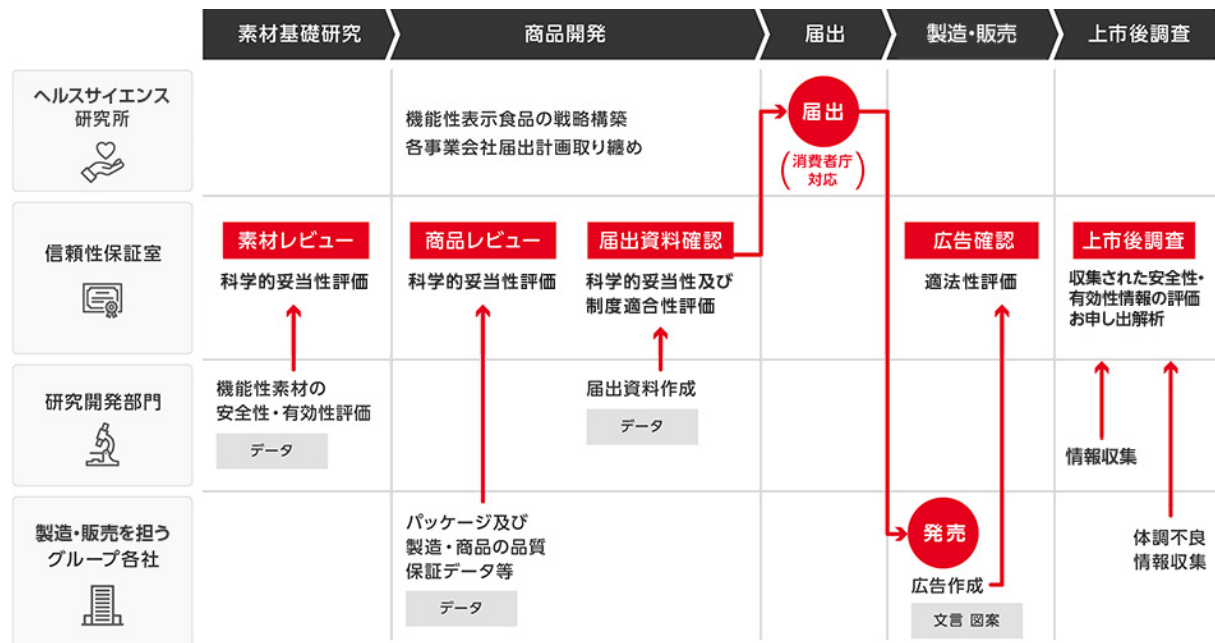
** InternationalからSEAK (South-East Asia plus Korea)に変更

*** 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）のワクチン開発・生産体制強化戦略関連事業である先進的研究開発戦略センター

他社製サプリメントの品質問題による影響とヘルスサイエンス領域における品質保証体制について

- ▶ グループ全体の業績への影響は現時点では大きくはないと見込むが、サプリメント市場の今後の動向は注視が必要
- ▶ 今までも強固な品質保証の体制を構築してきたが、今後も継続的に取り組みを見直し改善していく

機能性表示食品における素材基礎研究から上市後までの流れ



- ▶ 当社グループで「小林製薬社製の紅麹」を使用している製品はなし。

機能性表示食品における取り組み

- ▶ “科学的根拠に基づいた表示”を行えるように、機能性表示食品制度が発足する前の2014年に、基礎研究、商品開発、消費者庁への届出、マーケティング・製造・販売を行う各部門から**独立した組織**として、「**信頼性保証室**」を設立
- ▶ 素材研究から商品の上市、そして上市後の調査までの各プロセスにおいて、「**信頼性保証室**」が、社内の組織でありながら第三者としての立場でデータや表示の妥当性を厳しくチェック

Social

サステナビリティの取り組みが評価され「SX銘柄(サステナビリティ・トランスフォーメーション)*2024」に選定

- ▶ フォアキャスト&バックキャストの観点を兼ね備えた価値創造ストーリーを構築し、気候変動や人的資本、ガバナンス体制をはじめ、あらゆる方面でサステナビリティへの取り組みを模範的に進めている点を東京証券取引所と経済産業省に評価された



詳細はこちら

電気を使った塩味増強技術およびその技術を使った「エレキソルト」が日本学会議会長賞を受賞

- ▶ 明治大学の宮下芳明研究室と共に、電気の力を利用して減塩食の塩味を約1.5倍に増強する「電気味覚」の技術開発に成功。
- ▶ 「エレキソルト」デバイスの開発と実証実験を進めており、減塩食品の味をより美味しくする新たな選択肢として、今後の展開を目指す

「健康経営優良法人2024（ホワイト500）」認定を8年連続で取得

- ▶ キリンホールディングス及び協和麒麟の2社共に認定

Environment

キリンビバレッジにおいて「グリーン電力自動販売機」を1月以降全国で順次展開

- ▶ 稼働に必要な年間消費電力量に相当する「グリーン電力証書」を取得することで、その自動販売機は「グリーン電力」を使用したとみなされ、GHGの排出量を相殺することが可能。

「シャトー・メルシャン 梔子ヴィンヤード」にて農研機構との新たな共同研究を開始

- ▶ ブドウ畑の生物多様性評価の一層の高度化と、気候変動の緩和策である炭素貯留効果の評価に取り組む

Index評価 外部評価

CDP：最高位のサプライヤー
エンゲージメントリーダーの
評価を6年連続獲得

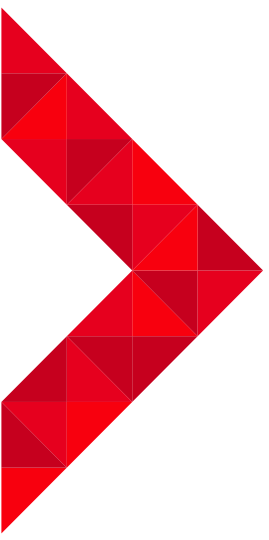


CDP：
水セキュリティ
最高位 8年連続アリスト



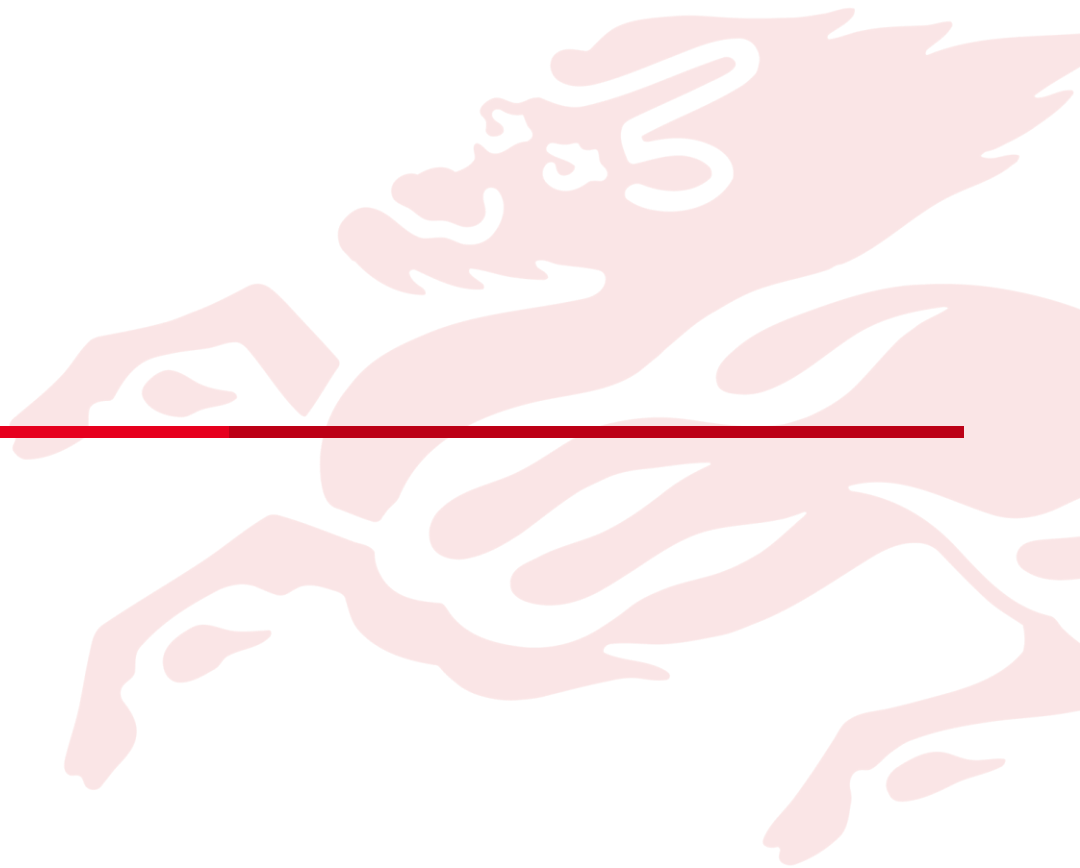
「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」
において環境サステナブル企業部門で
3回目の「金賞」を受賞





資料編

Joy brings us together



2024年度 1Q実績：平準化EPS 明細

(億円)		24年1Q実績	23年1Q実績
親会社の所有者に帰属する四半期利益	①	259	56
税金等調整後その他営業収益／費用等	②	4	202
平準化 四半期利益	③ = ① + ②	263	258
期中平均株式数 (千株)	④	809,872	809,827
平準化EPS (円)	③ ÷ ④	32円	32円

2024年度 1Q実績：セグメント別 売上収益

(億円)

連結 売上収益

		24年1Q実績	23年1Q実績	増減	%
酒類	麒麟ビール	5,018	4,503	514	11.4%
	Lion	2,382	2,251	130	5.8%
	うち豪州・NZ	1,406	1,364	42	3.1%
	うち北米クラフト他	696	627	69	11.0%
	Four Roses	480	453	27	6.0%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	216	174	42	24.2%
		62	59	3	4.3%
飲料		218	201	17	8.3%
	麒麟ビバレッジ	1,215	1,080	135	12.5%
	Coke Northeast	553	519	35	6.7%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	641	545	96	17.5%
医薬		21	16	5	29.7%
	協和麒麟	1,055	934	121	12.9%
	セグメント間取引消去	1,056	935	120	12.9%
ヘルスサイエンス		-1	-1	0	—
	Blackmores	319	174	146	83.8%
	協和発酵バイオ	147	—	147	—
	その他・内部及びセグメント間取引消去	120	127	-7	-5.6%
その他		52	47	5	11.4%
		46	64	-17	-27.1%

2024年度 1Q実績：セグメント別 事業利益

(億円)

連結 事業利益

酒類	
キリンビール	
Lion	
うち豪州・NZ	
うち北米クラフト他	
Four Roses	
その他	
飲料	
キリンビバレッジ	
Coke Northeast	
その他	
医薬	
協和キリン	
ヘルスサイエンス	
Blackmores	
協和発酵バイオ	
その他	
その他	
全社費用・セグメント間取引消去	

24年1Q実績	23年1Q実績	増減	%
331	336	-5	-1.5%
184	209	-25	-11.9%
106	142	-36	-25.3%
42	35	7	19.7%
28	20	8	41.4%
14	15	-1	-8.7%
23	25	-2	-8.5%
13	7	6	90.8%
122	96	26	27.1%
24	25	-1	-4.5%
95	69	25	36.8%
4	2	2	86.3%
165	162	3	2.0%
165	162	3	2.0%
-17	-14	-2	—
12	—	12	—
-23	-12	-12	—
-5	-2	-3	—
-2	-3	1	—
-123	-115	-8	—

2024年度 1Q実績：キリンビール

(億円)	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	1,406	1,364	42	3.1%
酒税抜売上収益	854	826	28	3.4%
事業利益	106	142	-36	-25.3%

23年1Q 事業利益 (億円)		142	主な内容
対 前 年 増 減	酒類等 限界利益増	30	ビール類計 1億 (ビール類減 -8千kl) ビール類以外計 9億 (RTD増 6千kl、ノンアル減 -0千kl) 他 品種構成差異等 20億
	原材料費増	-22	市況の高騰等
	販売費増	-50	広告費増 -30億 販売促進費増 -20億 (計99億→149億)
	その他費用減	6	経費減 他
	計	-36	
24年1Q 事業利益		106	

(千KL)	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減 %	市場 (カテゴリー)
ビール類計*	—	—	-2.4%	-2%
RTD	97	92	6.1%	4%
ノンアルコール飲料	7	8	-3.9%	—

* ビール酒造組合での合意により、ビール類の販売数量実績は、2Q及び4Qのみ開示

一番搾りブランド計	77	69	10.3%	9%
スプリングバレーブランド計	4	5	-14.4%	9%
淡麗グリーンラベル	30	33	-6.7%	-11%**
本麒麟	40	40	1.7%	-11%**
氷結ブランド計	65	60	8.8%	4%

* 2023年度からビールカテゴリーの開示はビール類のみとし、主力ブランドとチャネル別の明細を記載

** 発泡酒・新ジャンル（発泡酒②）合算のエコノミーカテゴリー前年比を記載

販売数量前年比	増減 %	市場
ビール類 業務用***	0%	4%
ビール類 家庭用***	-3%	-3%

*** 業務用：壺・樽・PET商品計、家庭用：缶計

2024年度 1Q実績 : Lion

円ベース (億円)

	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	696	627	69	11.0%
うち豪州・NZ	480	453	27	6.0%
うち北米クラフト他	216	174	42	24.2%
事業利益	42	35	7	19.7%
うち豪州・NZ	28	20	8	41.4%
うち北米クラフト他	14	15	-1	-8.7%

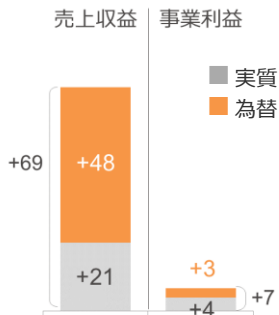
豪ドルベース (million AUD)

	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	711	688	23	3.4%
うち豪州・NZ	490	497	-7	-1.3%
うち北米クラフト他	221	191	30	15.7%
事業利益	43	39	4	11.5%
うち豪州・NZ	29	22	7	31.7%
うち北米クラフト他	14	17	-3	-15.0%

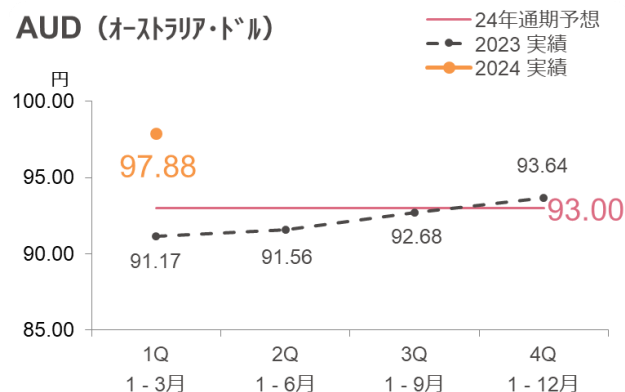
豪州・NZ事業利益増減 (million AUD)

23年1Q 事業利益		22
豪州・NZ	数量	-5
	その他*	12
24年1Q 事業利益		29

連結為替影響
2024年実績 (億円)



AUD (オーストラリア・ドル)



* 本社コストは、豪州・NZに含む

・ 対前年販売数量増減率は豪州・NZ・北米クラフト他の合計で+2%、豪州のみでは-1%。

2024年度 1Q実績：キリンビバレッジ

(億円)	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	553	519	35	6.7%
事業利益	24	25	-1	-4.5%

23年1Q 事業利益 (億円)		25	主要内容
対前 年 増 減	清涼飲料限界利益減	-0	販売数量増 400万ケース 19億 商品・容器構成差異等 -19億
	原材料費等増	-1	原料費増 -6億、材料費増 -1億、 加工費減 6億
	販売費減	4	販売促進費減 2億、広告費減 2億 (計40億 → 36億)
	その他費用増	-4	
	計	-1	
24年1Q 事業利益		24	

販売数量（万ケース）		24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減
清涼飲料計		4,188	3,788	10.5%
ヘルスサイエンス飲料		555	457	21.4%
うちプラズマ乳酸菌入り飲料		245	171	43.2%
容器別	缶	457	509	-10.1%
	大型PET	1,161	903	28.5%
	小型PET	2,194	2,000	9.7%
	その他	376	376	-0.1%

販売数量（万ケース）		24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減
ブランド別	午後の紅茶	1,196	1,112	7.6%
	生茶	551	489	12.5%

2024年度 1Q実績 : Coke Northeast / 協和キリン

➤ Coke Northeast

円ベース (億円)

	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	641	545	96	17.5%
事業利益	95	69	25	36.8%

USDベース (million \$)

	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	428	409	19	4.6%
事業利益	63	52	11	21.8%

➤ 協和キリン

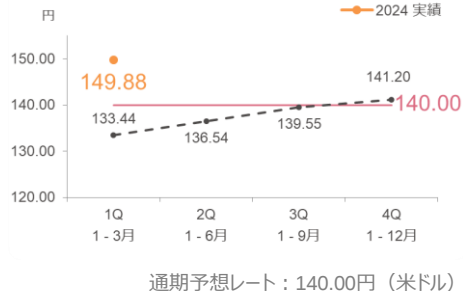
(億円)	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益	1,056	935	120	12.9%
事業利益	165	162	3	2.0%

協和キリンの決算発表はこちら

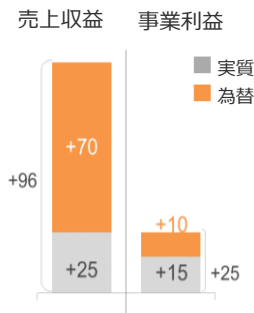
<https://ir.kyowakirin.com/ja/library/earnings.html>



USD (米ドル)



連結為替影響
2024年実績 (億円)



グローバル戦略品売上収益 (億円)

	Crysvita クリスビータ		Poteligeo ポテリジョ	
(億円)	24年1Q	23年1Q	24年1Q	23年1Q
日本	25	23	4	4
北米	228	188	63	43
EMEA	119	80	19	15
APAC	6	3	-	-
合計	378	294	86	63

2024年度 1Q実績 : Blackmores

円ベース (億円)

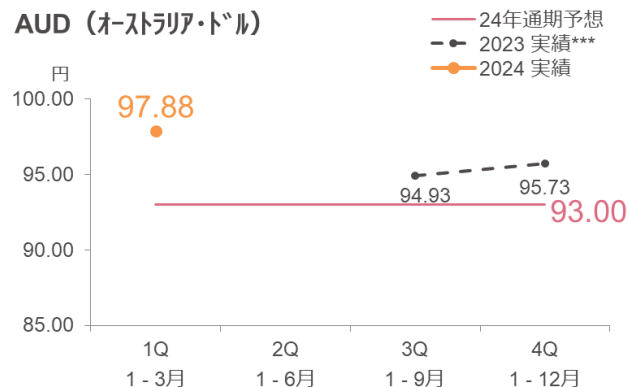
	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益*	147	-	147	-
豪州・NZ	66	-	66	-
SEAK**	36	-	36	-
中国	44	-	44	-
事業利益	12	-	12	-

- ・ Blackmores連結取り込み開始は23年3Qのため、1Q・2Qの前年実績記載はない
- ・ PPA (Purchase Price Allocation) は上半期中に確定の予定のため、無形資産の償却費は暫定値を使用

豪ドルベース (million AUD)

	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減	%
売上収益*	151	-	151	-
豪州・NZ	68	-	68	-
SEAK**	36	-	36	-
中国	45	-	45	-
事業利益	12	-	12	-

AUD (オーストラリア・ドル)



[参考]

豪ドルベース (million AUD)

	24年1Q 実績	23年1Q 実績	%
売上収益*	151	143	5.4%
豪州・NZ	68	64	5.0%
SEAK**	36	41	-10.5%
中国	45	37	20.9%

財政状態計算書 キャッシュ・フロー計算書

(億円)	24年1Q 実績	23年4Q 実績	増減
資産合計	30,047	28,696	1,351
資本合計	14,575	14,258	316
負債合計	15,472	14,437	1,035
ROIC*	—	8.0	—
グロスDEレシオ	0.65	0.58	—
ネットDebt／平準化EBITDA**	—	1.79	—
PBR(株価純資産倍率) ***	1.5	1.5	—

ROIC・ネットDebt／平準化EBITDAは4Qのみ開示

(億円)	24年1Q 実績	23年1Q 実績	増減
営業活動CF	399	419	-20
投資活動CF	-653	-314	-339
フリーCF	-255	104	-359
財務活動CF	347	-86	434

*利払前税引後利益／(有利子負債の期首期末平均＋資本合計の期首期末平均) にて算出

**平準化EBITDA＝事業利益＋減価償却費及び償却費(注)＋持分法適用会社からの受取配当金 にて算出

(注) 減価償却費及び償却費は使用権資産の償却費を除いております。

***期末株価終値／(親会社の所有者に帰属する持分／期末発行済株式数(自己株式除く)) にて算出



財政状態計算書

▶ **資産合計**：Orchard社の買収に伴うのれん、無形資産の増加等により前年度末に比べ1,351億円増加して3兆47億円となりました。

▶ **資本合計**：為替変動の影響等によるその他の資本の構成要素の増加等により、前年度末に比べ316億円増加して1兆4,575億円となりました。

▶ **負債合計**：新規借入等による社債及び借入金の増加等により、前年度末に比べ1,035億円増加して1兆5,472億円となりました。

▶ **グロスDEレシオ**：親会社の所有者に帰属する持分が3%増加した一方で、有利子負債が15%増加したことから、前年度末から増加しました。

▶ **PBR**：期末株価終値が2%上昇した一方で、親会社の所有者に帰属する持分が3%増加したことから、前年度末並みとなりました。

キャッシュ・フロー計算書

▶ **営業活動CF**：運転資金の流入は15億円増加、法人所得税の支払額は31億円増加しました。

▶ **投資活動CF**：有形固定資産及び無形資産の売却により33億円、投資の売却により7億円の収入がありました。一方、子会社株式の取得により451億円、また有形固定資産及び無形資産の取得については、前年同期に比べ69億円減少の220億円を支出しました。

▶ **財務活動CF**：配当金の支払により368億円、長期借入金の返済により217億円の支出がありました。一方、長期借入金の増加により1,020億円、コマーシャル・ペーパーにより190億円の収入がありました。

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together